

これまでの
あゆみ

| 事業沿革 | 主な活動 | 主な提言・指針・報告書 |
|--------|--|--|
| 2001年度 | 厚生科学研究の研究協力者会議として、48病院で開始 | |
| 2002年度 | | ● 機関誌「患者安全推進ジャーナル」創刊 |
| 2003年度 | 認定病院患者安全推進事業として評価機構内で事業開始(550病院参加) 提言・指針の取りまとめ配信開始 | 緊急提言「アンプル型高濃度カリウム製剤の病棟および外来在庫の廃止 10%キシロカインの病棟および外来在庫の廃止」 提言「中心静脈穿刺時の患者安全確保について」 |
| 2004年度 | | 緊急提言(改訂版)「アンプル型高濃度カリウム製剤の病棟および外来在庫の廃止 10%キシロカインの病棟および外来在庫の廃止」 提言「医療ガス使用時の安全確保に関して」 提言「抗がん剤投与に関わる情報の共有化」 指針「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針」 |
| 2005年度 | 会員病院数が認定病院の6割に当たる1,070病院を突破 ● 研修「医療コンフリクト・マネジメントセミナー」開始(2013年度より医療対話推進者養成セミナーへ移行) | ● ジャーナル別冊「KYTTトレーニングブック」 提言「人工呼吸器回路の接続外れ事故の防止について」 提言「誤認手術の防止について」 提言「経鼻栄養チューブ挿入の安全確保」 指針「医療記録の記載指針 V.6.0」 |
| 2006年度 | | ● ジャーナル別冊「感染管理に関するツール集」 ● ポスター「精神科における転倒・転落事故のリスクファクター」 指針「病院における医療安全管理の位置付けとその組織体制のあり方に関する指針」 |
| 2007年度 | あらたに患者安全推進全体フォーラム・地域フォーラムを開催 | ● ポスター「末梢静脈穿刺の安全対策(患者向け)」 ● 報告「患者安全に係る病院システムのトラブル集」 ● 「医薬品知識確認問題」ジャーナル連載開始 提言「チューブ類挿入患者の自己(事故)抜去防止対策」 提言「院内における自殺予防」 指針(改訂版)「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針」 報告書「持参薬に関する報告書」 |
| 2008年度 | | ● ジャーナル別冊「感染管理に関するツール集 療養病床・精神病床編」 |
| 2009年度 | ● 研修「CVC研修会」開始 | ● ジャーナル別冊「医療コンフリクト・マネジメントの考え方」 |
| 2010年度 | ● 研修「院内自殺の予防と事後対応のための研修会」開始 | ● ジャーナル別冊「院内での自殺対策のすすめ方」 ● 動画「口頭指示・SBAR使用例」 ● カレンダー「医師と私の指示受け10の約束」 |
| 2011年度 | 評価機構の公益財団法人化に伴い認定病院患者安全推進事業運営委員会を設置 | ● 報告「患者安全に係る病院システムのトラブル集」 |
| 2012年度 | | ● 動画「WHO手術安全チェックリストにまつわる教育動画」 提言「侵襲的な検査での誤認防止について」 |
| 2013年度 | | 報告書「救急カートの薬剤管理」 |
| 2014年度 | | ● ジャーナル別冊「患者安全推進に生かす10の警鐘的事例」 ● 動画「患者の移乗に関する教育動画」 提言「生体情報モニターのアラームに関連する医療事故防止について」 報告書「感染管理ピアレビュー実施の手引き」 |
| 2015年度 | 新規部会「施設・環境・設備安全部会」を設置 | ● ホームページリニューアル |
| 2016年度 | | ● ジャーナル別冊「転倒・転落のリスクマネジメント」 |
| 2017年度 | ● 「おひとりさま(ワンオペ)医療安全応援プロジェクト」開始 | ● 「物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例集」検索システム運用開始 提言「院内自殺の予防と事後対応」 |
| 2018年度 | 会員病院数 1,389病院(認定病院の63.6%) | ● ジャーナル別冊「高齢患者のリスクマネジメント」 ● 転倒・転落予防に関する標語の募集・優秀作品発表 |

インターネットからも活動をご覧ください

(スマートフォン対応済み)

ホームページ: <https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/>
Facebook: <https://www.facebook.com/psp.patient.safety.promotion>



2019.3



認定病院患者安全推進協議会は認定病院の有志が主体となり患者安全の推進を目的として評価機構内に事業化された協議体です

認定病院患者安全推進協議会 活動案内

3つの特徴

1

現場目線の情報共有の場

協議会の活動は、現場に始まり現場に終わります。病院から発信される悩みや課題のひとつひとつが、活動の始まりです。これらの現場の声の集まりこそ、私たち協議会の最大の魅力です。

2

全国の会員病院ネットワーク

協議会のネットワークは全国に広がっています。活動に参加することは、他の病院の取り組みを学ぶだけでなく、自院の取り組みを広くアピールするチャンスでもあります。ぜひこのネットワークを活かして、院内の医療安全活動の活性化に役立ててください。

3

日本の医療安全文化の醸成

現場の声が活動を生み、それらが日本の医療安全を動かす大きなうねりとなります。協議会はこれまでも、高濃度カリウム製剤の保管管理やCVC手技における安全確保等、日本の医療安全の文化醸成において多大な役割を果たしてきました。

医療への信頼を揺るがないものに

お問い合わせ

公益財団法人 日本医療機能評価機構 教育研修事業部 認定病院患者安全推進課
TEL. 03-5217-2326 (直通) FAX. 03-5217-2331 (直通)
E-mail. p0031_info_psp_office@jcqh.or.jp URL. <https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/>

公益財団法人 日本医療機能評価機構
認定病院患者安全推進協議会

患者安全の実現に向けて

「認定病院患者安全推進協議会」は、病院機能評価の認定を取得した病院の有志が主体となり、患者安全の推進を目的として2001年4月に組織化されました。

これまで、患者安全に関して緊急性の高い課題に応じた部会等を設置し種々の検討を行うとともに、患者安全推進ジャーナルを発行するなどの活動を通じて、全国の病院における患者安全の推進に寄与してきました。

患者安全の源流

認定病院患者安全推進協議会は、患者安全の推進という基本理念のもとに集まった病院の主体的な活動に拠り、2001年の発足以来、常に現場の安全活動を牽引する役割を果たしてきた。協議会では、我こそは、と集まったメンバーが職種や所属する病院を越えて議論を交わす。そこで生まれたアイデアは数多くのマテリアルとして結実し、関わった個々の医療者にも多くの気づきを与え、現場の患者安全の活性化につながっている。

現場の声と熱意こそが我々の活動の原動力である。是非とも多くの病院にご参加いただきたい。

日本医療機能評価機構 常務理事 橋本 迪生



会員病院の声

「会員病院の声」をもとに、協議会として活動目標を設定します。

協議会では、アンケート調査の実施やセミナーの開催を通じて、会員病院の皆さんが日々の業務の中で悩んでいることや課題に感じていることを抽出し、目標やテーマを設定します。そして、会員病院から選ばれたメンバーが部会や検討会等を組織し、活動計画を立て事業化しています。

これまでに、持参薬管理、転倒・転落の予防、生体情報モニターアラームの管理、物的環境の安全、おひとりさま医療安全管理者の働き方、チーム医療などをテーマに掲げ、医療安全に関わる様々な話題をタイムリーに取り上げてきました。



部会活動

活動目標の達成を目指して、「部会活動」を通じて議論を重ねます。

目標やテーマに応じて、部会・検討会を組織し議論を重ねます。それぞれの部会・検討会は現場の最前線で活躍している方々とその分野に造詣の深い有識者により構成されています。

部会・検討会では、現場の事情を踏まえて全国の会員病院にとって必要な情報、ツール、あるいは情報交換の場の提供を目指して議論を重ねています。



還元

活動成果を、全国の会員病院の皆さんに「還元」します。



フォーラム・セミナーの開催

医療現場において取り組むべき喫緊の課題をテーマに掲げ、講演やパネルディスカッションを行い、考察を深めています。また、部会や検討会の活動を報告する機会でもあります。参加者は多くの実践例や考え方・視点を持ち帰り、それぞれの現場での医療安全の推進に役立てています。

■ 地域フォーラム、全体フォーラム ■ セミナー（部会ごと）



研修会の開催

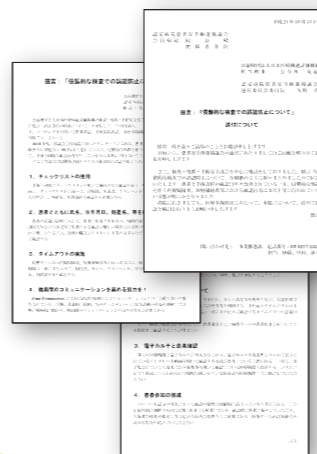
教育研修の機会として、特定の分野に特化した演習・実習の集中プログラムを提供しています。単に専門知識や技術を修得していただくだけでなく、グループディスカッション等を変え、院内で横断的に活躍する人材育成の役割も果たしています。

■ CVC研修会 ■ 院内自殺の予防と事後対応のための研修会

提言・指針・報告書の発信

部会・検討会での検討や会員病院へのアンケート等を通じて見えてきたことや、全国の病院や医療者が知っておくべき情報、警鐘的な事例を「提言」「指針」「報告書」としてまとめ、情報発信を行っています。

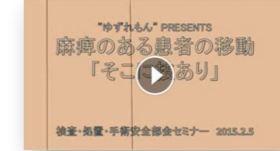
全国の会員病院が、取り組みを一斉に見直す機会ともなっています。



ツールの開発・提供

部会・検討会では、それぞれの病院で患者安全を推進していただくために、病院の担当者が利活用しやすいようアイデアを出し合います。

様々な形のツールや素材を開発しており、これまでにカレンダー、動画、クイズ感覚の知識確認問題等を提供してきました。



患者安全推進ジャーナル（年4回発行）

毎号、現場の方々から高いニーズのあるテーマを独自に企画し、特集記事として取り上げています。また、各部会・検討会で議論されたテーマや、続発する類似事故事例の考察等を通じ、時勢を踏まえた医療安全のヒントを提供します。



私たちは推薦します

国立大学法人電気通信大学
大学院情報理工学研究科 情報学専攻 教授 田中 健次



安全の仕組みと共に人の能力アップの仕掛けを医療機器の自動化やシステム化の仕組み導入による確実な作業が進む中、使用者による正しい活用や能力アップを促進する仕掛け作りも重要である。そのためには医療施設の規模、作業内容、使用者の経験を踏まえ、各施設の現状に見合った作り込みが必要になる。他組織での試みや良好事例を知り、専門家からアドバイスを受けることのできる協議会の活動は、その実現に極めて効果的な場であり、積極的な参加を期待したい。

旭川赤十字病院
院長 牧野 憲一



仲間から学ぶ患者安全

私は約10年間協議会活動に参加してきた。協議会には提言を含めて多くの情報を発信しているが、現場目線から外れることなく一歩先を行く患者安全の在り方を示している。また、セミナーでは普段は交流する機会のない全国各地からの同じ問題を抱える人と議論したり、先進事例の情報を得たりと明日からの患者安全活動に有用であり、是非とも多くの医療従事者に参加していただきたい。

独立行政法人国立病院機構
神戸医療センター 看護部長 高田 幸千子



医療安全文化を醸成し職員全員で取り組もう

良くない結果や期待していなかった結果を引き受けて生きていくのは患者・家族である。私たち医療者は、安全な医療システムをつくることと一つひとつの事例から学ぶことが大切だと考えている。多職種・チームで実践する医療において、職員個々が医療安全/患者安全について、考え・行動することが求められる。協議会で提供される様々な取り組み等医療界の知恵を広く共有し、自施設で活用していきましょう。

岡山協立病院 医療安全管理部
専従リスクマネージャー 佐藤 恭江



全国の仲間の活動をエネルギーにして

医療安全の活動は、課題の対応に追われて時に息切れしそうになるが、患者安全推進ジャーナルの記事を読めば再びパワーを充電できる。全国で前向きに頑張っている仲間からのエールのようだ。全く違う視点の取り組み紹介もあり、とても参考になる。これも協働の取り組みなのだろう。皆さまも、様々な情報を共有して一緒に頑張っていきたい。